

事務局:〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学 経済学部大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL&FAX 03-5421-5639

会費振込口座:「経営哲学学会」00160-9-573076

学会ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>

## 経営哲学学会 第21回全国大会のご案内

統一論題 : 経営を生きる—— 経営者の役割を問う ——  
時 : 2004年8月6日(金)・7日(土)・8日(日)  
会場 : 青 森 公 立 大 学

大会開催校からのご挨拶

青森公立大学 吉原 正彦

桃の節句も過ぎ、春めいてまいりました。ここ青森の地も、ようやく雪解けとなり、芽吹くのを待つばかりとなってきました。

このたび、経営哲学学会第21回全国大会を青森公立大学で開催することになりました。

経営哲学学会は、昨年度の中京大学で20周年を迎えて一つの区切りとなり、『経営哲学とは何か』を公刊し、経営哲学を世に問うことができました。

新たな一步を踏み出す第21回全国大会の統一論題として、経営哲学学会の原点を問うという姿勢で、「経営を生きる——経営者の役割を問う——」を掲げました。

今日、事業活動の大規模化や複雑化により、組織の官僚制化が進むとともに、経営の主体は「組織」となり、経営者はその「一機能」として組織に埋没しかねない存在になっています。他方で、低迷している企業に外部から経営者が入り込み、その強力なリーダーシップの下に業績を奇跡的に回復し、新たな事業展開を実現している事例も珍しくありません。

こうした状況に直面し、種々の組織が展開する事業における“経営を生きること”の意味が問われ、改めて、“経営者の役割は何か”という、古くて新しい問題が提示されています。

事業経営の論理は組織の論理であるのか、それとも経営者の論理であるのか。経営者とは何なのか。経営者が組織を動かしているのか、それとも組織が経営者を動かしているのか、経営を貫いている哲学は何か、など、その問題は深く、また広い射程を持っていると考えられます。

この現状を踏まえ、第21回全国大会の統一論題として、われわれは、「経営を生きる——経営者の役割を問う——」を掲げます。このたびの大会は企業のみならず、行政、大学、NPOなどの諸組織の経営者(executive)を考察の対象として、経営者の理念や行動に理論と実践の双方から迫ることにより、現代経営の論理に内在している経営哲学を明らかにしたいと思います。

開催校である青森公立大学は、1993年に創設された経営経済学部経営経済学科の単一学部です。それゆえに、小さな所帯ゆえに行き届かないことが十分に予想されます。また、青森の地は交通の便が必ずしもよいとは言えません。しかし、規模と立地の利点を生かした大会運営を行っていきたいと思います。

大会開催の時期は、ちょうど日本の火祭りといわれる“ねぶた祭り”と重なる時でございます。大会参加と積極的な質疑応答はもとよりですが、これを機会に“ねぶた祭り”にご参加いただきたいと思ます。

第21回全国大会が盛会となるよう、青森公立大学は努力いたしますので、学会会員の皆様の積極的なご参加を心からお待ちいたしております。

注) “ねぶた祭り”は、8月2日から7日までの5日間です。4日から大型ねぶたが練り歩き、6日の夜に最後のねぶた運行があり、7日は花火の下でのねぶた海上運行となっております。

#### 【統一論題の概要】

統一論題は、4つのブル・セッション(討論型セッション)によって行われます。当セッションでは、多くの時間を取り、会員各位が積極的に参加できるように工夫をいたします。

##### 第1セッション: 大学経営

問題提起者: 佐々木 恒男(青森公立大学)

討論者: 小田 章(和歌山大学)

山田 雄一(明治大学前学長、明治大学名誉教授)

##### 第2セッション: 企業経営

問題提起者: 中條 秀治(中京大学)

討論者: 地元経営者(交渉中)

菊澤 研宗(中央大学)

##### 第3セッション: NPO経営

問題提起者: 大滝 精一(東北大学)

討論者: 中橋 勇一(協同組合プランニングネットワーク東北)

大木 裕子(京都産業大学)

##### 第4セッション: 行政経営

問題提起者: 川上 和久(明治学院大学)

討論者: 佐々木 誠造(青森市長)

澤 茂樹(株式会社 電通)

【関東部会のお知らせ】 下記日時で日本労務学会との合同部会を開催します。

日時: 平成16年7月10日土曜日 場所: 日本大学経済学部(水道橋)

詳細につきましては再度ご案内致します。

## 1. 各部会報告

### ◆ 九州部会報告(平成15年11月22日、九州産業大学にて開催)

- (1)「経営学の主流と本流 管理の科学と哲学」  
池内 秀己(九州産業大学)
- (2)「経営学とはいかなる学か その主流と本流  
付)人的資源管理と自己点検・自己評価」  
三戸 公(立教大学名誉教授・中京大学名誉教授)

経営哲学学会第2回九州部会が、平成15年11月22日(土)13:30より九州産業大学で開催された。報告は池内秀己「経営学の主流と本流 管理の科学と哲学」と、三戸公「経営学とはいかなる学か その主流と本流 付)人的資源管理と自己点検・自己評価」であった。

池内報告は哲学と科学の史的展開と、方法としての科学と哲学及び両者の関係についての整理・検討を試みるものであった。三戸報告は「管理とは何か」を正面から論じたものであり、具体的には(1)3つの科学的管理と(2)科学的管理の主流と本流、及び科学と哲学の構造、(3)主流の科学論とサイネバティクス、(4)吉田民人情報論、(5)三戸情報論が論じられ、更に(6)自己評価・自己管理の管理論的意義についての問題提起がなされた。とりわけ、議論の中心となったのは情報論の再検討であり、吉田教授・三戸教授の所論を対置することにより興味深い知見が示された。  
(九州産業大学 池内秀己)

### ◆ 関西・中部合同部会(平成15年12月20日、越前三国 国民休暇村にて開催)

- (1)「特別養護老人ホームの経営(「光苑」の事例)」  
奥村 眞澄(特別養護老人ホーム 施設長)
- (2)講演「自社の経営と経営哲学」  
今村 善孝(大電産業(株)代表取締役社長、福井経済同友会代表幹事)

(1)

奥村眞澄氏の報告は、介護福祉サービスが「行政による措置」から「利用者と事業者の契約」に移行したことによる、社会福祉法人の福祉施設経営の問題点と今後の課題について考察したものである。

介護保険制度導入後の利用状況と福祉施設での実際の収支推移データを用いて、社会福祉法人の経営実態が報告された。介護サービス単価や定員が法定されているので収入を高める余地はほとんどなく、そのような状況で効果的効率的な経営を行うためには、サービスの質を落とさずにコストダウンを図っていかなければならないという難しい問題を抱えている。また、努力の結果として要介護度が下がると収入も少なくなるという点も大きな問題だと指摘された。平成17年の介護保険制度見直し後、高齢者が4人に1人になる2015年へ向かって、新しいケアモデルを確立していく積極的なプランが提唱されたが、福祉施設の新しい経営理念に基づいたケアモデルが確立されることを期待したい。  
(中部学院大学短期大学部 河野 篤)

(2)

今回の合同部会のもう一人の報告者として、地元福井でIT関係の企業を経営しておられる大電産業の代表取締役社長(福井経済同友会代表幹事)の今村善孝氏に講演をお願いした。同氏は「自社の経営と経営哲学」と題されたテーマの中で、当時、ちょうど注目を集めていた松下電器産業と松下電工の統合を例に出されて、松下幸之助の哲学から戦後の日本企業の経営哲学に亘り、幅広い知識とご経験から興味深いお話を頂戴した。このように日本各地におられる地元の企業経営者の理念や哲学を、今後はもっとお聞きする機会を本学会としても拡充すべきであると感じた次第である。  
(明治学院大学 大平 浩二)

◆ 関東部会報告(平成16年3月6日、早稲田大学にて開催)

(1)「マーケティングのニューパラダイム」

上原 征彦(明治学院大学)

(2)「特許訴訟に関わる課題と展望-「職務発明」の「相当の価格」検証を通して-」

境 新一(東京家政学院大学)

去る3月6日に、厚東偉介関東部会長の下で、早稲田大学を開催校として関東部会が開催され、引き続き懇親会が開催されました。

今回の関東部会では、二名の報告がありました。第一報告は明治学院大学の上原征彦先生の「マーケティングのニューパラダイム」でした。第二報告は、東京家政学院大学の境新一先生の「特許訴訟に関わる課題と展望-「職務発明」の「相当の価格」検証を通して-」でした。

第一報告では、マーケティングの目的を消費の創造とし、消費の創造のためには消費者に期待をもってもらうために提案を通して顧客満足度を高めることが必要だ、という内容の報告がなされた。魅力的なプレゼンテーションと明快なメッセージのため、報告者への期待が高まり、参加者の満足度は相当高まったといえるでしょう。ことに、マーケティングに関する明快な定義と意味づけは、畑違いの私にとってはとてもわかりやすく、とても納得できるものでしたので、非常に感動しました。

第二報告では、現在最も注目されているホットな話題の一つである、職務上の発明に関するその価格に関しての報告であった。報告では「相当の対価」がどの様に法的に認識されているかが説明され、社会と企業と個人が法律とどの様な関わり方をしているのか、欧米との違いの中に課題を見いだそうとされていた。関心を広げ思考を開く刺激的な報告でありました。

なお、報告者の上原先生はフードサービス学会の会長をなされており、今回の報告は、経営哲学学会とフードサービス学会のコラボレーションの試みの始まりを示す記念すべき報告でした。フードサービス学会からは、上原先生の他に3人の会員が参加され、懇親会で懇親を深めることができました。豊かな報告と、部会長の心配りに対し、報告者と部会長に心からの感謝をおくりたいと思います。  
(北海学園大学 大平 義隆)

◆ 北海道部会報告(平成16年3月18日、北海学園大学にて開催)

「組織の合理性に関する一考察」 大平 義隆(北海学園大学)

経営哲学学会北海道部会が3月18日に北海学園大学7号館において開催されました。当日は、あいにく雪の混じる天候でしたが、代表理事の大平浩二先生と常任理事である厚東偉介先生にも参加していただき、部会報告をはじめ会員相互の懇親においても有意義な一日を過ごすことができました。当日の報告では、組織の合理性問題について、M.ウエーバー、H.サイモン、J.D.トンプソンら

の合理性に関わる議論を踏まえ、わが国の企業組織における従業員の勤勉さを説明する原理として、価値 - 行為合理性という捉え方の有効性が提起され、それについて活発な議論が展開されました。とりわけ、「価値の参照行動」という報告者のコンセプトについて、参加者それぞれの立場からコメントや質疑がなされ、参加者一同、多くの知的な刺激を受けることができました。

北海道部会初めての開催でしたが、無事、成功裏に終了することができました。これを機会に、部会としての活発な活動が予感されます。(北海学園大学 大月 博司)

## 2. 他学会等との交流

### ◆ 海外論文発表：国際交流委員会から

平成16年5月26日～28日にアラスカ／アンカレッジで開催される21回「環太平洋学術交流会議」(Pan-Pacific Conference XXI) に、経営哲学学会の【第1回・海外研究交流プロジェクト】が合流参加します。「環太平洋ビジネス学会」(Pan-Pacific Business Association) との共同開催ですが、私どもからの報告論文名と報告者らは次の通りです。

- ① *How Can the Economy be Consistent with Society?*  
追手門学院大学 西岡 健夫 (Prof. Takeo Nishioka, Otemon Gakuin University, e-mail: nishioka@res.otemon.ac.jp)
- ② *Relativity of the Japanese Management Culture- Perspective on Management Values in the Japanese Context*  
上武大学 小森 茂 (Prof. Shigeru Komori, Jyobu University, e-mail: Skomori81@aol.com)
- ③ *New Paradigm of Growth Strategies Especially for Small Manufacturers*  
九州産業大学 山本 久義 (Prof. Hisayoshi Yamamoto, Kyushu Sangyo University, e-mail: hisayosi@h7.dion.ne.jp)
- ④ *Relativity in Global Management: Dilemma of Japanese Corporations*  
桜美林大学 馬越 恵美子 (Prof. Emiko Magosi, Oubirin University, e-mail: emimagoshi@pep.ne.jp)
- ⑤ *The Management Philosophy of Toyota Executives--Glocal Strategy of 'Ie' and 'Mura' Doctrine*  
中京大学 村山 元英 (Prof. Motofusa Murayama, Chukyo University, e-mail: fwhw4649@mb.infoweb.ne.jp)
- ⑥ 分科会チェアマン：  
専修大学 岡田 和秀 (Prof. Kazuhide Okada, Sensyuu University)
- ⑦ 共同研究報告者：  
麗澤大学 M.K.ムラヤマ (Prof. M. K. Murayama, Reitaku University)

論文発表以外に「PPCアラスカ大会」での研究資料収集と国際研究交流パートナーの探索を希望者される方は、どうぞ遠慮なく「国際交流委員会」(村山元英: fwhw4649@mb.infoweb.ne.jp)までご一報下さい。大会主催側の企画に「ファミリー・プログラム」がありますのでご家族での参加を特にお勧めします。他に「日本経営教育学会」と「国際経営文化学会」などからの共同研究のお仲間たちのご参加もあります。

#### ◆ フードサービス学会との合同研究会

3月6日(土)の関東部会(早稲田大学)の折に、かねてよりお知らせしておりました、フードサービス学会との合同研究会へ向けての打ち合わせ検討会を行いました。本学会より、厚東偉介会員ならびに大平が出席し、先方より上原征彦同学会会長(本学会理事でもあります)、寺沢利雄(流通経済研究所)、藤居謙太郎(藤居事務所)、横川潤(文教大学)の4氏が来訪され、今後の方向性につき意見を交換いたしました。フードサービス学会の大会が5月に開催されることもあり、それを終えた後にさらに具体案を検討することとなりました。部会後の懇親会にもご出席をいただき、本学会の会員の先生方との交流も深められました。(大平浩二)

### 3. 会員異動(平成16年3月6日までの承認分)

#### ◆新入会員18名(順不同):

浅井 光(まちづくり福井(株))	生田 泰亮(大阪大学大学院)
上田 つよし(一般)	薄井 海理(明治学院大学大学院)
宇都宮 守(九州産業大学大学院)	王 英燕(京都大学大学院)
大石 雅也(九州大学大学院)	小野 宗利(小野人事管理研究所)
齋藤 貞之(北九州市立大学)	齊藤 将(元福岡工業大学)
佐々木 秀徳(明治学院大学院)	杉原 英夫(九州共立大学)
田口 智子(北海道浅井学園大学短期大学部)	竹下 俊一(鹿屋体育大学)
晴山 英夫(北九州市立大学)	平手 賢治(名古屋大学大学院)
福島 浅次郎(北九州マネジメントコンサルタンツ)	古川 順一(東京国際大学)

#### ◆退会会員8名(順不同):上武 建造、小野 弓郎、加藤 利安、桑原 哲也、佐々木 篤信、山田 稔、米山 高生、若林 満

#### ◆所属変更

石井 康彦(旧:愛知産業大学、新:高千穂大学)  
小野 琢(旧:明治学院大学、新:愛知産業大学)  
原 敏晴(旧:流通科学大学大学院、新:大阪商業大学)  
藤沼 司(旧:明治大学、新:愛知産業大学)  
三井 泉(旧:帝塚山大学、新:日本大学)

### 4. 事務局より

#### ◆関西部会長の交代

今年3月まで関西部会長を務められました三井 泉先生が、4月より日本大学経済学部へ所属が変更となりました。その後任として、京都大学の日置 弘一郎先生が関西部会長に就任されました。

#### ◆名簿作成 今年には会員名簿更新の年です。書類郵送の際は、ご協力をお願い致します。

経営哲学学会事務局 ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>  
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学経済学部 大平研究室  
e-mail: [ohira@eco.meijigakuin.ac.jp](mailto:ohira@eco.meijigakuin.ac.jp) TEL&FAX 03-5421-5639